

科目名 (英)	鍼灸診察学 I (東洋医学) Diagnostecs of Acupuncture and Moxbustion I	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 2	開講区分	(通年科目)前期
曜日・時限							

【授業の学習内容】

東洋医学概論で学んだ知識を活用し、東洋医学的な診察法や病態把握の方法論について学ぶ。
前期では、主に東洋医学の診察法である四診(望診、聞診、問診、切診)と弁証論治(八綱弁証)について学ぶ。

【到達目標】

東洋医学の診察法である四診(望診、聞診、問診、切診)と弁証論治(八綱弁証)を身につける。
 <具体的な目標>
 目標①顔面、舌、腹部、脈に配当される臓腑の位置が答えられる。
 目標②各病証でみられる特徴的な症状の東洋医学用語とその意味が答えられる。
 目標③八綱弁証における8つの病証が何を診るものかが説明でき、それぞれの病証においてみられる特徴的な症状を答えられる。
 目標④国家試験の過去問題で四診、八綱弁証の項目にあてはまるものに関して出題意図が理解でき、解答できる。

授業計画・内容	
1回目	四診の種類と特徴について説明できる。
2回目	望診:望神、望色、望形体、望姿勢、望小児指紋について説明できる。
3回目	望診2:舌診における舌質・舌苔の診方を学習し、舌診の練習を行う。
4回目	聞診:音声の異常・発声、発語の異常・その他の異常音について説明できる。
5回目	問診1:寒熱の異常、汗の異常について説明できる。
6回目	問診2:疼痛の部位と種類について説明できる。
7回目	問診3:飲食、口味、睡眠、二便、月経の異常について説明できる。
8回目	切診1:脈診の基本、六部定位脈診の診方を学習し、脈診の練習を行う。
9回目	切診2:脈状診の診方を練習し、脈診の練習を行う。
10回目	切診3:腹診と臓腑配当、特定腹証について説明できる。
11回目	弁証論治について説明できる。
12回目	発病のメカニズム(正邪盛衰、陰陽失調)を説明できる。
13回目	八綱弁証1:表裏、寒熱を説明できる。
14回目	八綱弁証2:虚実、陰陽を説明できる。
15回目	まとめ(四診、八綱弁証についての要点を説明できる。)
準備学習 時間外学習	(目標①)授業毎に行う小テストの勉強を行うことで、前回の授業の内容の復習ができます。小テストで間違えたところや分からなかったところはすぐに見直し正しい答えに直してください。 (目標②)東洋医学用語については、反復学習により慣れることが必要です。漢字は書いて覚える、漢字の読み方は声に出して覚える、用語の意味は分からなければすぐに調べるを徹底しましょう。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	1年次に習った東洋医学概論を基礎とした科目です。(国家試験では東洋医学概論の中に含まれます。) 鍼灸診察学 I では東洋医学的な診察法(四診)や診断法(弁証論治)を学習します。授業毎に前回の授業のポイントを復習するための小テストを実施しますので、毎回、小テストに向けての勉強をしっかりと行ってください。小テストに向けての学習を行うことで毎回の授業ポイントをしっかりと把握することができます。また前回の授業とのつながりが整理でき、授業の内容にスムーズに入っていくことができます。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書:新版 東洋医学概論 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社	

科目名 (英)	鍼灸診察学 I (東洋医学) (Diagnostecs of Acupuncture and Moxbustion I)	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 2	開講区分	(通年科目)後期
【授業の学習内容】 東洋医学概論で学んだ知識を活用し、東洋医学的な診察法や病態把握の方法論について学ぶ。 後期では、主に東洋医学の病態把握に用いる弁証論治(気血津液弁証、臓腑弁証、経絡弁証)について学ぶ。							
【到達目標】 東洋医学の東洋医学の病態把握に用いる弁証論治(気血津液弁証、臓腑弁証、経絡弁証)を身につける。 <具体的な目標> 目標①気血津液弁証に含まれる病証の症候と臨床症状と脈舌が答えられる。 目標②臓腑弁証に含まれる病証の症候と臨床症状と脈舌が答えられる。 目標③いくつかの臨床症状から、あてはまる経絡弁証を答えられる。 目標④国家試験の過去問題で四診、八綱弁証の項目にあてはまるものに関して出題意図が理解でき、解答できる。							
授業計画・内容							
16回目	気血津液弁証①: 気病弁証に含まれる病証を理解し、説明できる。						
17回目	気血津液弁証②: 血病弁証に含まれる病証を理解し、説明できる。						
18回目	気血津液弁証③: 津液病弁証に含まれる病証を理解し、説明できる。						
19回目	臓腑弁証①: 心病弁証に含まれる病証(心気虚・心陽虚・心血虚・心陰虚)を理解し、説明できる。						
20回目	臓腑弁証②: 心病弁証に含まれる病証(心火亢進・心脈痺阻)・小腸病弁証に含まれる病証(小腸虚寒・小腸実熱)を理解し、説明できる。						
21回目	臓腑弁証③: 肺病弁証に含まれる病証(肺気虚・肺陰虚・風寒束肺・風熱犯肺)を理解し、説明できる。						
22回目	臓腑弁証④: 肺病弁証に含まれる病証(痰湿阻肺・熱邪壅肺)・大腸病弁証に含まれる病証(大腸湿熱・大腸津虚・大腸滑泄)を理解し、説明できる。						
23回目	臓腑弁証⑤: 肝病弁証に含まれる病証(肝気鬱結・肝火上炎・肝血虚・肝陰虚)を理解し、説明できる。						
24回目	臓腑弁証⑥: 肝病弁証に含まれる病証(肝陽上亢・肝風内動)・胆病弁証(胆鬱痰擾)を理解し、説明できる。						
25回目	臓腑弁証⑦: 脾病弁証に含まれる病証(脾気虚・脾陽虚・脾気下陷・脾不統血)を理解し、説明できる。						
26回目	臓腑弁証⑧: 脾病弁証に含まれる病証(寒湿困脾・脾胃湿熱)・胃病弁証に含まれる病証(食滯胃脘・胃陰虚・胃熱・胃寒)を理解し、説明できる。						
27回目	臓腑弁証⑨: 腎病弁証に含まれる病証(腎陽虚・腎陰虚・腎気不固・腎不納気)に含まれる病証を理解し、説明できる。						
28回目	臓腑弁証⑩: 腎病弁証に含まれる病証(腎精不足)・膀胱病弁証(膀胱湿熱)に含まれる病証を理解し、説明できる。						
29回目	経絡弁証①: 十二経脈病証の特徴を理解し、説明できる。						
30回目	経絡弁証②: 十二経脈病証の特徴を理解し、説明できる。奇経八脈病証の症状の特徴を理解し、説明できる。						
準備学習 時間外学習	(目標①) 授業毎に行う小テストの勉強を行うことで、前回の授業の内容の復習ができます。小テストで間違えたところや分からなかったところはすぐに見直し正しい答えに直してください。 (目標②) 気血津液弁証および臓腑弁証では1年生で習った東洋医学概論の知識が基本となります。特に臓腑の病証において、臓腑の生理作用の失調によって出現する病証については、その臓腑の生理作用の理解が必要になりますので、授業前に臓腑の生理作用を確認するのはもちろんのこと、授業の中でもすぐに確認できるように1年次の東洋医学概論のプリント、ノートを持参してください。						
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。						
受講生へのメッセージ	1年次に習った東洋医学概論を基礎とした科目です。(国家試験では東洋医学概論の中に含まれます。) 鍼灸診察学 I では東洋医学的な診察法(四診)や診断法(弁証論治)を学習します。授業毎に前回の授業のポイントを復習するための小テストを実施しますので、毎回、小テストに向けての勉強をしっかりと行ってください。小テストに向けての学習を行うことで毎回の授業ポイントをしっかりと把握することができます。また前回の授業とのつながりが整理でき、授業の内容にスムーズに入っていくことができます。						
【使用教科書・教材・参考書】 教科書: 新版 東洋医学概論 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社教科書							